



第19図 長岩層の紡錘虫化石
 1 a-b エオスタフェラ・ウルトラギガンテア *Eostaffella ultragigantea* KOBAYASHI 1a 縦断面 1b 横断面 ×60
 2 a-b シュウドスタフェラ・アンティクア *Pseudostaffella antiqua* (DUTKEVITCH) 2a 縦断面 2b 横断面 ×40
 3 a-b シュウドスタフェラ・ヤポニカ *Pseudostaffella japonica* KOBAYASHI 3a 縦断面 3b 横断面 ×30
 4 プロフズリネラの一種 *Profusulinella* sp. 縦断面 ×30
 (1-4 KOBAYASHI 1973 より)

長岩層 は本地域東端に これも鬼丸層と同様に南北に細長く分布する。下位の鬼丸層との接合関係はよくわからない。ここでは一応パラコンフォーミティーとしておく。

本層は白色ないし灰白色の糖状石灰岩からなる。凝灰岩を原岩とするホルンフェルスの薄層がわずかにみられる。全層厚は 500m+である。

化石は接触変成作用によりほとんど残されていない。小坪沢入口の露頭(第17図)でケエテーテスがみつかっただけである。ここでは変成を免れた他地域の長岩層から得られた標本を図示することにする(第18・19図)。

第18図は横田の北方 15km の上有住(岩手県気仙郡住田町上有住)蓬畑沢で採れたケエテーテス・ナガイワエンシスの薄片標本である。湊 正雄・加藤 誠両氏の“Upper Carboniferous corals from the Nagaiwa Series, Southern Kitakami Mountains, N. E. Japan” (Jour. Fac. Sci., Hokkaido Univ., ser. 4, vol. 16, 1974) から拝借した。ケエテーテスは以前床板さんごと考えられていたが 今日それを硬骨海綿とする見解が定着しつつある。

小林文夫氏は模式地長岩(岩手県大船渡市日頃市町長岩)の本層から多くの紡錘虫を記載された: “Fusulinids of the Nagaiwa Formation” (Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan, N. S., no. 92, 1973). それによると本層は下部

のミレレラ帯と上部のプロフズリネラ帯に分けられる。

ミレレラ帯からエオスタフェラ・ウルトラギガンテア(第19図 1a・1b) シュウドスタフェラ・アンティクア(第19図 2a・2b) が産する。プロフズリネラ帯からはシュウドスタフェラ・ヤポニカ(第19図 3a・3b) プロフズリネラの一つ(第19図 4) が産する。もし横田地域の長岩層も変成されていなければ 同様の紡錘虫化石が含まれているはずである。

紡錘虫は前期バシユキール世～前期モスクワ世を示す。湊・加藤両氏(Minato and Kato 1974 前出)のさんご化石の研究からも同様の結論が得られている。いずれにせよナムール世 特にその初期の堆積物を欠くとみられる。すなわち鬼丸層と本層との間には時間的間隙があるというのが現在の定説である。

以上で横田の石炭系についての紹介を終る。

・ 人事異動	
(新)	(旧)
尾崎 一夫	総務部筑波管理事務所長 地質調査所総務部長
井上 俐	地質調査所総務部長 公営資源研究所総務部長
沢村 孝之助	地質調査所地質調査協力室主任 研究官配置換 地質調査所北海道支所長
植田 芳郎	地質調査所北海道支所長昇任 地質調査所燃料部主研
昭和54年7月1日 工業技術院	